



発達障がい支援をしていると「どこまでが個性でどこからが障がいのか」と迷ったり「どこをどうやって支援するとよいのか」と悩むことがあります。本人の意思が強固で周囲の助言を聞き入れない場合などは、支援者の迷いはより大きくなるでしょう。

札幌市では、発達障がい者支援施策の一環として「発達障がいに関する支援体制サポート事業」を行っています。この事業は発達障がいがある方への個別支援計画作りのバックアップをするもので、地域の支援力を高め支援体制を強化するのがねらいです。

このたびガイドブック作成プロジェクトとして、この事業に関わる発達障がい支援者たちが集まり、日常業務で培ってきた『支援のコツ』を出し合ってみました。そして地域の支援者たちが個別支援計画をステップを踏んで作成していけるよう、特に本人ニーズの見立て方に重きをおいて、ガイドブックを作成しました。

このガイドブックが、発達障がいの支援方法の柱の一つになり、発達障がいがある方の生活の質の向上に少しでも役立ていただければ幸いです。

<目次>

- ・支援者たちの声 P 1
- ・そもそも個別支援計画とは？ P 2
- ・では、発達障がいがある方のニーズとは？ P 3
- ・本人と決めていくための見立てのSTEP1・2・3 P 4 ~ 5
- ・個別支援はケアマネジメントサイクルと共に P 6
- ・おわりに P 7
- ・【番外編】本人たちの地味な苦勞 P 8
- ・【番外編】役割の違い・アプローチのコツ P 9



支援者たちの声

発達障がいがある方の支援をしていて、困ったことはなんですか？ 支援者の正直な声を聞いてみました。

正直 本人のニーズが捉えにくい

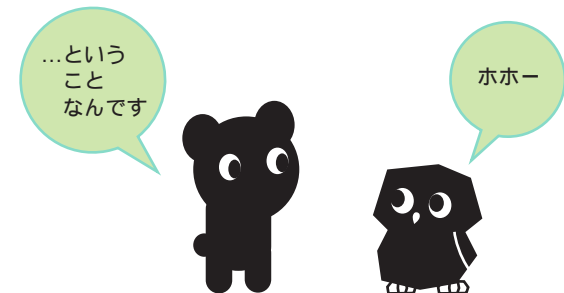
- ・考え、感情、言葉が一致していないような印象を持つことがある。
- ・「本人の思い」なのか「親の思い」なのか区別しづらい。
- ・ファンタジーやこだわりがニーズとして表現されてるような時もある。
- ・見せる顔、伝える事が相手によって違っていることもある。

正直 何が起きているのか捉えにくい

- ・障がい特性の問題なのか？ 個性の問題なのか？ 環境の問題なのか？ どこに焦点を当てて今の状況を捉えればよいのか分からなくなる。

正直 個別支援計画が立てづらい

- ・本人が工夫すべき問題なのか、周りが工夫すべき問題なのか判断が難しい。どんな目標が適切なのか迷う。



支援者代表・ケアベア

発達障がい当事者代表・ジミクロウ